

# 小児科専門医研修ネットワークプログラム

## 1 はじめに

プログラムリーダー 沼津市立病院 小児科部長 村林督夫

小児科専門医取得受験には初期研修2年間を含め、5年間の小児科研修が必要です。受験は筆記試験と面接試験です。受験者は診療に携わった症例30例のサマリーを提出し、うち3例について面接試験で試問されます。この30症例は偏りがないうよう、呼吸器3例、循環器3例、新生児3例、、、といったように各分野にわたった症例が規定されています。

東部の各施設の特徴を生かし、小児科各分野の臨床経験を重ねましょう。当地域で価値のある研修を積むこと、小児科専門医の資格を取ることに、我々は精一杯協力していきたいと思っております。



## 2 特徴

- ・小児の総合的な診療を意識した、幅広い症例を経験する研修ができます。
- ・各病院の特徴である専門性を学べます。
- ・夜間当直は二次救、三次救の対応が中心となります。
- ・年に数回、東部地域の後期研修医を集め、各施設で勉強会、倫理講習会などを行います。
- ・地域での勉強会、研究会も盛んに行っております。
- ・沼津小児科医会が毎月1回あり、開業医との連携を実感できます。
- ・県東部はなにより東京に近いので、各大学病院でのカンファレンスや研究会、学会への参加も可能です。
- ・各施設の母体となる大学病院とのつながりも利用できます。
- ・その後の進路として、希望者は各病院に残ることも可能です。
- ・小児科研修中は静岡県の奨学金（月20万円）貸与制度があります。  
（義務年限は貸与期間の1.5倍）。
- ・当地域では伊豆半島や沼津など駿河湾、相模湾の絶景を堪能できます。ヨットをお持ちの先生もいますので、ぜひ楽しんでみてください。

## 3 目的

- 1) 小児科医として必要かつ十分な診療能力を習得すること。
- 2) 小児科専門医資格を取ること。

## 4 目標

- 1) 小児科医として必要かつ十分な診療能力（問診、診察、手技、診断、治療、病状説明、倫理観）や知識を習得する。
- 2) 小児科疾患の病態生理を理解する。

3)小児科医として多彩な臨床経験を踏み、小児科専門医試験受験資格を得、30 症例を診療する。

## 5 研修カリキュラム

小児科学会『臨床研修手帳』に準ずる。

## 6 研修例

- 1) 各病院での研修期間は基本的に1年間とするが、短縮（最低6ヶ月間）も可能です。
- 2) 静岡県立こども病院での6ヶ月間の研修が必修です。

### 【例】

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	沼津市立病院											
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	県立こども病院						順天堂大学医学部附属静岡病院					
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	富士市立中央病院											

## 7 研修病院群

### 1) 研修施設（五十音順）

#### 国際医療福祉大学熱海病院

国際医療福祉大学熱海病院は静岡県最東部の熱海市にあります。熱海市を中心に東は神奈川県湯河原町や真鶴町、南は伊豆半島の東海岸の伊東市や東伊豆町、西は函南町を主な診療圏にしています。この地域は観光地であり日祭日や観光シーズンには旅行者の健康を守る役割も担っています。病院は約260床の規模で、産科があるので出生した新生児の管理・疾患の治療や、乳児健診や予防接種などの小児保健活動にも注力しています。また、医師数は小児科常勤医6人、非常勤医2人、小児外科常勤医1人で、専門外来は小児膠原病外来、小児循環器・川崎病外来、小児外科疾患外来アレルギーセンターでは小児アレルギー疾患外来を開設し食物アレルギーなどの研究に取り組んでいます。

小児てんかん外来、言語発達障害児のため言語聴覚士による言語発達セラピー、身体リハビリ（OT/PT）、月に一度専門医を迎えて小児心療内科の専門外来を開いています。

#### 静岡県立こども病院

当院は、静岡市の郊外の静かな環境の中に位置する、小児の高度専門医療を行う病院です。従来から存在する小児内科系は新生児未熟児科、血液腫瘍科、腎臓内科、内分泌代謝科、アレルギー科、循環器科、神経科、心療内科、遺伝染色体科などです。小児を対象とする外科系もほとんどの診療科が揃っています。なかでも心臓血管外科は日本をリードする実績を残しています。平成19年に小児集中治療科（PICU担当）が設置され、ドクターヘリなども利用しながら、静岡全県を網羅する三次救命救急医療を展開しています。その頃に、救急総合診療科も併設され、二次救急を行いながら、病院独自で採用している後期研修医（年間5名）

を教育し、専門医になる前の小児科医を養成しています。専門診療科研修や他病院での地域医療研修もそのプログラムの中に入っています。単身向け宿舎も備えていますので、研修をするには申し分ない環境と思います。

## 順天堂大学医学部附属静岡病院

### 沼津市立病院

指導医 村林督夫(1993年 日本大学医学部卒) 常勤医 4名

一般小児と新生児をバランスよく診られること、主治医制による実践的な研修であることが当科の特色と考えています。

地域周産期母子医療センターとしてNICUは在胎30週以上、出生体重1200g以上の児を対象としています。

毎朝の手短なカンファレンスで、医療の質を高めています。当直は2次、3次救急が中心で、1次救急は地域の夜間センターが行っています。

小児神経、循環器、内分泌の専門医師が月1回(循環器は月4回)特殊外来を行なっています。

小児外科、放射線科、臨床心理士も常勤しており、適宜連絡をとっています。

週1回、産科と周産期カンファレンスを行っています。

図書室の閲覧と文献検索、取り寄せも簡便で、研修する環境は整っています。

### 富士市立中央病院

指導医 瀬川孝昭(1977年 東京慈恵会医科大学)

千葉博胤(1970年 東京慈恵会医科大学) 秋山直枝(1990年 独協医科大学卒)

当科は富士市のみならず静岡県東部地域の基幹病院として、一般小児医療、小児救急医療、新生児医療に尽力を注いでおります。一般小児医療では開業の先生方と病診連携をはかり、効率的でレベルの高い医療を目指しています。小児救急医療では24時間体制で1次救急機関の医療センターや救急隊からの重症患者の受け入れを中心に行っています。新生児医療においては当院産科のみならず地域の産婦人科開業医からの直接的な受け入れも積極的に行い、また新生児8床と限られたベッド数の中で静岡県立こども病院新生児未熟児科との協力体制を構築しております。

当科は症例数が多いのが特徴で、いろいろな疾患を通して良い体験ができると思います。

### 富士宮市立病院

専門医 深澤ちえみ(1989年 浜松医科大学卒)

富士宮市を中心に、静岡県東部から県境という地理的条件から山梨県南部までの、小児一般・救急・新生児医療を担っています。一次救急から二次救急までの症例がファーストタッチで経験でき、新生児医療も院内出生児だけでなく、開業医からの紹介や静岡県立こども病院の搬送も受け入れており症例豊富です。小児一般では、一般外来で幅広い疾患を経験できる他、専門外来(神経・内分泌・循環器外来 各2回/月)も行っています。病診連携を通じて市内外からの紹介も受け入れており、入院症例も多く経験できます。

## 聖隷沼津病院

専門医 鶴井 聡 (1983年 徳島大学医学部卒)、杉谷 正浩 (1993年 東海大学医学部卒)

当院の医師数は、常勤5名、非常勤4名の9名体制で診療を行っています。完全予約制をとっていないため、プライマリ・ケアに携わる機会が多くあります。また、近隣の開業医からの紹介や輪番制による二次救急、さらに浜松医科大学の協力のもと内分泌外来、心臓外来を月数回に数回設け、稀な疾患も含め様々な疾患を経験出来ます。学会参加に対しては積極的に行い、小児科学会静岡地方会、日本小児科学会、小児神経学会、思春期学会等で発表しております。

科の特性として神経疾患は多く、NICUでは院内出生児以外にも院外出生への対応も強化し、順天堂静岡病院からの搬送も積極的に受入れています、帝王切開例には小児科医が全て立会い、産科と毎週カンファレンスを行い、情報交換を行っています。疾患も多彩に対応し、経験も十分に備わっております。後期研修医は待遇面を含め常勤医として扱われ、後期研修期間後も常勤医師として働くことも可能です。

## 2) 研修関連施設 (五十音順)

### 静岡医療センター

平成16年、国立東静岡病院から独立行政法人国立病院機構静岡医療センターとなり平成21年5月、ヘリポートの完成をもって病院の改築工事がすべて終了、病院が新しくなりました。小児科は現在、常勤医3名(小児科専門医2名)で外来・病棟診療、地域の二次待機当直(輪番制)にあたっております。

外来は一般外来の他、乳児健診・予防接種外来、専門外来は週1回の血液外来、月1回の神経・循環器外来、年2回の腎外来(腎生検を含む)を設けております。

外来は紹介患者、慢性疾患患者が主で、入院患者はここ5年間で漸減傾向はありますが年間343~629人程度で各種急性疾患が主となっております。

### 静岡県立静岡がんセンター

専門医 石田裕二(1992年 自治医科大学卒)

静岡県東部にあるがん専門施設の中の小児科として、非常に専門的な分野ではありませんが、様々な役割を担っております。研修施設としては、特殊な形態となりますが、小児科学会の専門医の取得に欠くことの出来ない腫瘍領域の中では、多くの固形腫瘍を経験することが出来ます。また、がんセンターのガン診療の基盤なかで、その理念に沿った、チーム医療を経験し、多くの腫瘍専門医、多職種の方々と交流することは、様々な分野に共通する財産となることと思います。

### 伊東市民病院

## 8 病院群の実績（平成 26 年 1 月～12 月）

症例要約 10 分野について、3 症例以上あれば◎、1～2 症例は○、なしは×

	熱海病院 国際医療福祉大学	沼津市立病院	富士市立中央病院	富士宮市立病院	聖隷沼津病院	静岡病院 順天堂大学医学部附属	県立こども病院
1. 遺伝疾患、染色体異常、 先天奇形	○	◎	◎	○	○	—	—
2. 栄養障害、代謝性疾患、 消化器	◎	◎	◎	○	◎	—	—
3. 先天代謝異常、内分泌 疾患	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
4. 免疫異常、膠原病、リウ マチ性疾患、感染症	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
5. 新生児疾患	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
6. 呼吸器疾患、アレルギー	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
7. 循環器疾患	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
8. 血液疾患、腫瘍	◎	◎	◎	○	◎	—	—
9. 腎・泌尿器疾患、生殖器 疾患	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
10. 神経・筋疾患、精神疾患 (精神・行動異常)、心身症	◎	◎	◎	◎	○	—	—
入院総数 (人数)	190	521	1752	530	592	—	—

## 9 研修期間

3～5年間（学会入会期間等により個別に対応）

## 10 プログラム参加者の要件

小児科専門医を目指し、地域医療に貢献したい人

## 11 処遇

- 1) 身分
- 2) 給与
- 3) 健康保険等の福利厚生制度
- 4) 医師賠償責任保険
- 5) 休日等
- 6) 宿舎
- 7) 学会費用

原則として、研修する病院の規定に従う。

## 12 プログラム修了後の進路

- 1) 病院群及び地域の病院への就職を優先的に斡旋します。
- 2) 病院群等の関連する大学医局への入局を斡旋します。

## 13 プログラム運営委員（◎：プログラムリーダー）

◎沼津市立病院 部長 村林督夫(1993年 日本大学医学部卒)

日本大学医学部小児科医局在局、専門：新生児科

資格：小児科認定医、新生児暫定指導医、NCPR インストラクター  
実りある研修にしましょう。



国際医療福祉大学熱海病院 教授 佐藤正昭(1968年 慶應義塾大学医学部卒)

私は1968年慶應義塾大学医学部卒で、日本小児科学会専門医、日本小児循環器学会名誉会員・暫定指導医です。H21年3月まで東京都立清瀬小児病院小児科部長を勤め、H21年4月から現職です。専門領域は小児循環器疾患です。また、永年東京都清瀬市就学相談会委員を務め発達障害児の進学相談にも携わってきました。前職の小児病院時代に卒後3～5年の後期研修医の若い先生方と一緒に患者さんを診療し、指導しながらも教えられることも多かったことを体験しております。その経験を生かし、静岡県東部地域、熱海病院で後期研修医の先生方と一緒にこども達を診療していきたいと思っています。



**静岡県立静岡がんセンター 小児科部長 石田裕二(1992年 自治医科大学卒)**

小児科部長の石田です。静岡の人、自然、おいしい魚、サッカーに魅せられて、当地で仕事を続けております。多くの仲間の中で、小児がんのこども達の診療にあたり、厳しさのなかで、感謝の気持ちで日々の診療をしております。是非積極的な、研修参加者の方々と、チーム医療をおこなっていききたいと希望します。

**聖隷沼津病院 副院長兼小児科部長 鶴井 聡(1983年 徳島大学医学部卒)**

日本小児科学会 小児科専門医、日本小児神経学会 小児神経専門医

卒後、直ぐ浜松医科大学に入局し東京女子医大、UCLA、浜松市発達医療センターで主に神経疾患について勉強しました。若い先生には責任を持ちながら、自分で考えて診療にあたってもらよう指導しています。

**小児科副部長兼 NICU 科長 杉谷 正浩(1993年 東海大学医学部卒)**

日本小児科学会 小児科専門医、専門：未熟児・新生児、

神奈川、東京で大学病院、市中病院した後、神奈川県立こども医療センターで新生児医療を経験しています。地方でも最先端の医療が提供できるよう、院内または他の医療機関と連携し診療にあたっていくよう努めています。

**富士市立中央病院 部長 瀬川孝昭(1977年 東京慈恵会医科大学卒)**

日本小児科学会認定指導医 アレルギー学会専門医

静岡県三島市生まれで地元の中学、高校を卒業し富士市立中央病院で永らく働いています。当院は世界文化遺産に指定された富士山を眺めながら心地よく働くには日本一の場所だと思います。富士市は人口 26 万の工業都市ですが、入院施設が当院しかなく、症例数が多くいろいろな臨床症例を経験できるのが特徴です。



一般小児科、小児救急、新生児医療・・・、と症例にはこと欠きません。

多くの患者さんを通して、一般小児科からサブスペシャリストを目指すには最適の病院ですので、是非当院での研修をお勧めします。